太田川ダム貯水池左岸の上部斜面における小崩落について

袋井土木事務所 ダム管理課
平成　22年　7月　23日

【概　要】

太田川ダム貯水池（かわせみ湖）の左岸に隣接する上部斜面で、小規模な崩落が確認されましたが、現地調査の結果、貯水池の安全性に影響する恐れはないと判断されます。

1. 発生箇所　本川左岸林道の「ぬいど橋」から上流方向へ、約100mの管理用歩道の山側法面（県道大河内森線　傳倉橋の対岸付近）

2. 発見日時　平成22年7月12日（月）　午前11時頃

3. 現場状況　6月中旬以降、梅雨末期の降雨が続き、流域雨量で1ヶ月積算で500mm程度の降雨があった。7月に入っても降雨が続いていたが、7月12日の貯水池巡視により本川左岸管理用歩道の山側法面に小崩落を発見し、現地調査を行った。

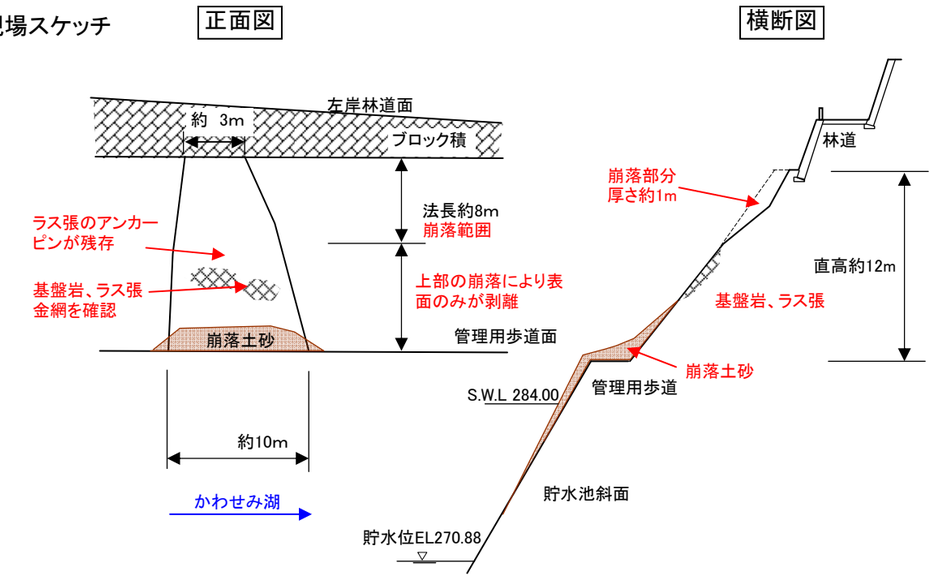
崩壊の規模は、延長約10m、高さ12m、崩壊最大厚1m程度の表層崩落とみられる。なお、左岸林道の構造物（山留ブロック積、谷側ブロック積）及びコンクリート舗装面に亀裂や段差などの変状は確認されなかった。

（本川左岸林道についてはH22.3.31付けで森町役場へ管理移管済みである）

4. 現場状況の考察　現地調査の結果、法面崩落は管理用歩道上部の一部が崩落したことにより、崩落土砂が下部にある管理用歩道面に堆積したものと考えられる。管理用歩道より下に崩落した土砂は、上部の崩落土砂が管理用歩道を越えて、貯水池斜面まで達したもので、貯水池斜面の変状によるものではないと判断される。

5. 対　応　今後の降雨による崩落の拡大を防止するため、応急措置として崩落法面のシート養生を行う。恒久対策については、さらに現地調査を行い、検討していく。

6. 現場スケッチ



上空から被災箇所の全景と撮影位置　H21.6.12撮影（崩落前の状況）

位置図

①右岸側からの全景 H22.7.12撮影

②上部崩落状況 H22.7.12撮影

③管理用歩道状況（下流側から）H22.7.12撮影

④林道路面状況（上流側から）H22.7.12撮影